



■学長誕生パーティ(宮島)



■クリスマスの集い



■宗教音楽大会



■女子学生寮(セシリアホーム) 祝別

- 1月31日 第14回定期演奏会。
 フランク:オラトリオ《至福》
 指揮:太田司朗
- 2月25日 諸井三郎氏講演会。
- 3月15日 第7回スピリチュアルコンサート。
 (世界平和記念聖堂)
 フランク:オラトリオ《至福》
 バッハ:《ヨハネ受難曲》等
- 4月 1日 校名をエリザベト短期大学と改称し、
 3年制の音楽科単科の短期大学に転進。
 さらに短期大学宗教科を設置。
- 4月29～5月2日 演奏旅行。(岡山、倉吉、神戸)
- 5月8～13日 演奏旅行。(京都、舞鶴、宮津)
- 6月 6日 エリザベトコンサート。
- 6月28日 古沢淑子独唱会。
 「フランス歌曲の夕」。(本学主催)
- 7月 7日 女子学生寮完成。
- 9月10日 日本でカラーテレビの放送開始。
- 10月9～11日 日本宗教音楽学会本学にて開催。
- 10月31日 特別公演。(三次小学校講堂)
- 12月23日 「クリスマス集い」。(広島市公会堂)

ストラヴィンスキー氏来日演奏の際、ゴーセンス学長宛に書簡を送る。(氏は1962年にソ連に帰国が許される。)

ゴーセンス神父様
ご親切なメッセージをありがとうございました。いつの日か、かの広島のすばらしい記念聖堂のために1つのお祈りを書くことができますように望みつつ。

東京にて4月26日
イゴール・ストラヴィンスキー
(原文は英語)

1959年の思い出 7期 中川 三智子(池岡)

エリザベト音楽大学創立50周年、心より嬉しく、お慶び申し上げます。

1958年11月、今上天皇ご婚約のニュースの中、美智子様の清楚なファッションとお姿に、ゲーモールハウス(トタン板の屋根)で、ロビーで、教室でと、おしゃべり雀の大変な人気を呼び、その中で、わが校ファッションは、黒のスーツ、黒ベレー、少ない小遣いを修理にあてなければならなかった高価なストッキング、ハイヒールと、束縛から逃げようとする生意気盛りの学生が、どうにか様になったのは、学長はじめ先生方のご努力のおかげと思いかけています。学長の「真中だめよ。良い。悪い。どちらかよ。」の言葉は、全力投球されるその姿を表し、大学で学んだ者に一つのスピリットとして残りゆったりとした流れて次の世代へ伝えている自分を嬉しく見ることの幸せを感じています。

- 1月27日 スペイン、アレグリアス舞踏団世界平和記念聖堂訪問、本学合唱団と合唱交歓。
- 1月30日 第15回定期演奏会。
メンデルスゾーン:オラトリオ《エアリア》
- 7月10日 第8回スピリチュアルコンサート。
(野口由松司教着座記念、世界平和記念聖堂)
ブルックナー:《テ・デウム》他
- 11月2~6日 演奏旅行。(高松、三田尻、徳山)
- 11月11日 本学学生シモン樺山暁生神父急逝。
1958年4月より京都教区の特別派遣学生として宗教音楽、音楽理論を研究。
高松への演奏旅行中に発病し、帰京後死去。
3年生全員京都での葬儀に参列し、冥福を祈る。
- 11月26日 第16回定期演奏会ハイドン:《十字架の七言》他
- 12月18日 演奏旅行。(宇部)
- 12月23日 「クリスマスの集い」。(広島市公会堂)
本学東洋宗教音楽研究室制作の聖劇
《星は闇のなかで輝く》を上演。



■第15回定期演奏会



■クリスマスの集い



■樺山神父葬儀

エリザベト精神よ永遠なれ!! 8期 石橋 尚子(田村)

世は正に安保闘争の真只中、学生運動の波はエリザベトにも押し寄せてきたのです。その時、故エルネスト・ゴーゼンス学長が、「音楽大学には政治は要らない。参加したい人はどうぞ退学して下さい。音楽を心から愛し、追求しようと思う人だけ残って……!!」といつになく強い口調でおっしゃったのを、今なつかしく思い出しています。

私達のクラスは18名という小さな仲間、その中に、兄のような存在であったのが樺山神父、澄んだ目の温かい人柄の方でした。

当時エリザベトの名は、未だ余り知られておらず、PRが必要な時でした。昭和35年、特にこの年は、北は青森、南は高松とPRを兼ねて数か所での全国縦断コンサートが催されたのです。楽しい演奏旅行のちょうど中間日、実は私達は悲しい知らせを聞く事になったのです。「樺山神父の死」でした。

京都のカトリック教会でのミサ、そして埋葬には全員参列しご冥福を祈りました。

戦時中、半死の状態、何日も何日も海の上をさまよっていたという神父の体は「まともな内蔵はほとんど無かった」と後になって聞きました。旅行中私が何度も演奏したスペイン交響曲第1楽章を聴く度「希望を持って!!信じよう!!人生は中々楽しいよ!!」耳元に樺山神父様の声は今でも聞こえるようです。



■学長帰広

3月11日 スピリチュアルコンサート。(世界平和記念聖堂)
バッハ:《ヨハネ受難曲》

6月15日 ゴーセンス学長渡欧。
(ケルン市で開かれる第4回宗教音楽会議
出席と、本学充実のための資金獲得のため。)

10月21日 ローマ教皇庁使節(日本駐在公使)ドミニコ・
エンリッチ大司教来校。

11月 5日 ゴーセンス学長ヨーロッパより帰広。

11月18日 第17回定期演奏会「バッハの夕べ」。
指揮:太田司朗

12月 8日 ローマ教皇庁立宗教音楽院の姉妹校となる。
B.S.M.(宗教音楽学士)の授与認可。

12月23日 「クリスマスの集い」。(広島市公会堂)
本学東洋宗教音楽研究室制作の聖劇
《新しき地と新しき天》を上演。



■クリスマスの集い

1961年のこと 9期 桑山 直美(益田)

1961年は、私達9期生が最終学年へ(3年生)として過した年です。

この年に大学中が盛り上がり、心一つにして頑張った事の一つは、12月に永井主憲先生作曲による聖劇《新しき地と新しき天》が広島市公会堂にて上演された事だと思います。ヨハネの黙示録が根底にあるこの曲は、少し難かしく感じましたが、前年に上演された聖劇「星は闇の中で輝く」に続く2作目で、合唱、ソロ、ダンス、パントマイムとオーケストラで成っており、それは美しく、今でも思い出して歌えるほど皆の身に付いていました。この年は又、エリザベト皇太后お付きの伯爵夫人の御来訪、ゴーセンス学長様がベルギーより帰広された年でもありましたが、お迎えも、お見送りも、演奏旅行に出発する駅のホームでも、かならず、あの「おいマリア」の歌が響きわたるのです。

- 3月11日 第9回スピリチュアルコンサート。
 バッハ:《ヨハネ受難曲》
 指揮:ゴーセンス学長
- 5月30日~6月2日 演奏旅行。(東京、福井、仙台、盛岡、青森、秋田、
 日比谷公会堂ではジョン・ハント氏のさよなら演奏
 会に賛助出演)
- 7月20日 作曲家オリヴィエ・メシアン氏とピアニストの
 イヴォンヌ・ロリオ女史来校。翌21日には2人による
 演奏会がホールで行われた。
- 7月21日 メシアン氏、ロリオ女史による演奏会。
 メシアン:《アーメンの幻影》他
- 10月13日~14日 第1回バザーを開催。
- 11月17日 第18回定期演奏会。
 ヘンデル:《エジプトにおけるイスラエル》
 指揮:太田司朗



■メシアン来校



■メシアン氏、ロリオ女史演奏会

3月11日

世界平和記念聖堂において、ドイツ首相アデナウアー氏寄贈のモザイク「再臨のキリスト」、およびオーストリア国寄贈のステンドグラスの取付工事が完了し、記念式典がオーストリア大使、ドイツ総領事を迎えて挙行された。本学合唱団は、ヨハネ受難曲を演奏。

この年に、4年制昇格の申請に際して聖泉寮(ゲーモールハウス)を撤去、又、西条校舎のための土地を購入。旧4号館建設に着手。



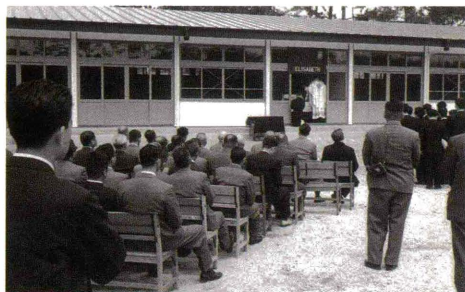
■ゲーモールハウス



■第1回大学祭バザー

昭和37年 -音楽も高度成長期にあって- 10期 星島 恂(岡村)

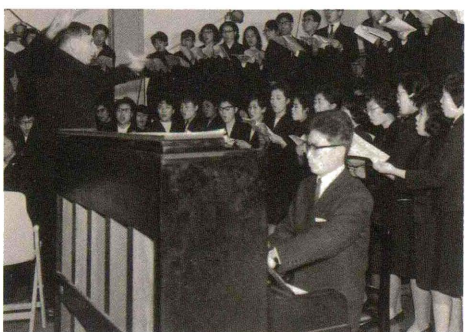
「おまえら痩せても枯れても音楽家ぞ!」と太田先生、和声では「des moll II は何ぞ!」と鋭い声の井上先生に目が合わぬよう息を止める程に怖かったあの35年前のクラスメート達と、昨年京都の桂川で楽しいひとときを過ぎ、過し過ぎる程に語り合いました。当時東京から仙台、青森、秋田、福井とゴーセンス学長率いるデラックスな演奏旅行を経験した事、永井先生のオラトリオ演奏、4年制大学へ向けて西条校舎の準備等、密度の高いご指導を頂いた夢中の3年間でした。又校庭に残るg.moll軽食堂で咽を潤し、すり切れる程に聴いたSレコードの音楽史面接試験も、今となればよくぞ聴かせて下さったと感謝の思い出で一杯です。エリザベト音楽大学有難う。



■西条学舎の祝別



■当時のスタッフ



■「ワタキョウミテグサイ」



■江波寮のクリスマス

- 1月 6日 学校法人エリザベト音楽大学と改称し、寄附行為の一部変更認可。
- 2月14日 チューザレ・ヴァラブレガ、ピアノリサイタル。
- 3月11日 本学創立15周年記念演奏会。(広島市公会堂)
永井主憲:聖劇《地に塩となりて》
- 4月 1日 エリザベト音楽大学開設。4年制大学に昇格。3年制短期大学と宗教科廃止。初代学長にエルネスト・ゴーセンス理事長就任。
- 5月19～21日 演奏旅行。(長崎) 永井主憲:聖劇《地に塩となりて》
- 6月23日 演奏旅行。(松江)
- 7月20～22日 演奏旅行。(鳴戸、徳島)
- 7月23日 旧師アレクシス・ウッサン神父帰天。
- 8月10日 サビエルホール天井から出火。
- 9月7～8日 第2回バザー開催。
- 10月21日 「フランス音楽の夕べ」。
(4年制音楽大学昇格、創立15周年記念、広島市公会堂)
安川加寿子、古沢淑子、井上二葉。
- 11月23日 ケネディ大統領暗殺。
- 11月24日 第19回定期演奏会「オラトリオの夕べ」。
指揮:ロベルト・ヴリーゲン、ルチアノ・バルタニヨリオ
ヘンデル:《ソロモン》他
- 12月22日 クリスマス・エリザベトコンサート。(西条)

昭和38年「江波寮の思い出」 9期 對馬 榮子

昭和38年エリザベトが4年制大学に昇格した年、セシリアホームの他に、江波にもう1つの女子寮を計画されたのでした。一戸建ての小さい家を4軒借りて「江波寮」と名付けられその1軒に煙上さんご夫妻が管理人として住み、奥様が寮生の食事を作って下さいました。当時22才の私が寮生の世話役として学長から依頼されたのでした。広島市江波港町横堀3。父から届いたその頃の手紙を未だに捨てられずに持っています(郵便ハガキ5円也)。江波寮はセシリアホームと比較にならない程の不便そのもので寮生には気の毒でした。でも寮のクリスマス会には、ご多忙の筈の学長様を始めルイス神父様、Sr. マリアの諸先生方は寮生を喜ばせようと夜遅く迄ご参加下さり、学生一人ひとりを本当に大切にしておられました。この事は施設の貧しさや不便さを忘れさせ、それに優る温い人間の心に触れて、愛に満たされた思い出として残っています。その頃の寮生から今でも毎年賀状が届きます。

母校の発展を祈る 11期 長船 義生

先日大阪で開かれました特別演奏会の打ち合わせ会で、井上学長様はじめ懐かしい恩師の方々と再会し、楽しい一時を過ごすことができました。卒業後、ゴーセンス前学長様の御葬儀や、母校の行事のために何度か帰校しましたが、その後ずい分ごぶさたしてしまいました。

さて、私達11期生が学んだのは昭和30年代の後半でした。

義務教育の延長?と思えるほどの厳格な学生生活に多少の反発を覚えながらも、みな真剣に勉強しました。

カトリズムを背景とした音楽の原点を学ぶことができた私達は大変幸せでした。

また、厳格な和声学、対位法の学習、バスタロッチャーや中江藤樹についての研究、ミサへの参加、施設慰問、演奏旅行、ベルギー国王御夫妻やメシアン氏の御来校など、いずれも貴重な体験をさせていただきました。

11期生全員揃って創立50周年を御祝いできないのが大変残念です。

松井卓郎兄はじめ、ご逝去された同級生の方々の御冥福を心から御祈りするとともに、11期生一同井上学長様ならびに先生方の御健闘と母校の益々の御発展を祈念いたします。

- 1月28日 ベルギー国王ボードゥワンご夫妻、国賓として来日し、本学を公式訪問。
- 10月 1日 東海道新幹線開業。
- 10月10日 東京オリンピック開催。
- 10月12日 エリザベトコンサート。
(広島市公会堂)
ホセ・テホン教授作品発表会。
演奏:大阪フィル 指揮:ホセ・テホン
- 10月31日~11月1日 第3回バザー。
- 11月18日 フランソワ・ミソフ駐日フランス大使来校。
- 11月 硬式庭球部、美術部など本学に初めて
同好会ができる。
- 12月11日 ヴァン・ハテン駐日ベルギー総領事来校。
- 12月20日 クリスマスコンサート。(世界平和記念聖堂)
イタリアのクリスマス合唱曲他
指揮:ルチアノ・ペルタニョリオ



■ベルギー国王ボードゥワンご夫妻ご来校



■ベルギー国王ボードゥワンご夫妻ご来校



■エリザベトコンサート



■エリザベトコンサート

ベルギー国王御夫妻公式訪問 11期 森 佳代子(増村)

エリザベト音楽大学の名称は、創立者エルネスト・ゴーセンス学長の出身国、ベルギーのエリザベト皇太后から賜ったものです。

1964年(東京オリンピック開催年)1月28日、国賓として、ボードワン国王とファビオラ王妃御夫妻が私達の大学を公式訪問されました。その前夜、広島駅にご到着になった御夫妻を、10期生の中本さんと私がフランス語で歓迎の言葉と花束贈呈という身に余る大役を務めさせてさせていただきました。翌日はいよいよ公式訪問です。旧ザビエルホールでの歓迎レセプションは秒刻みのスケジュールの中、女子教職員と女子学生は、全員華やかな正装の和服姿で整列し、学長の指揮によるベルギー国歌、附属音楽園生のわらべ歌と続き、私達は学長の「一致の精神」を大いに発揮し、感激のうちに歓迎会を終えたのでした。両日共、雪まじりのそれは寒い日々でした。

3月14日 スピリチュアルコンサート。(世界平和記念聖堂)
ドヴォルザーク:《スタバト・マーテル》

3月15日 短期大学(3年制)最後の卒業式。

4月24日 本学西条学舎の八角堂校舎落成。
東洋宗教音楽研究所他を併設。

5月31日 カトリック教会と日本基督教団でエ
キユメニカル懇談会開催。

10月9日~10日 第4回バザー。

10月13日 ゴーセンス学長、ベルギー政府より
「レオポルト騎士勲章」を授与される。

11月 7日 スピリチュアルコンサート。(世界平和記念聖堂)
スモレンスキー:《リタニエ》他

11月23日 ベルギー国エリザベト王妃ご逝去。

12月 1日 同王妃追悼ミサ。(世界平和記念聖堂)
駐日ベルギー大使フップルス氏臨席。

12月19日 クリスマスコンサート。(世界平和記念聖堂)
バッハ:《クリスマスオラトリオ》他

指揮:井上一清



■インド舞踊(八角堂にて)



■学食(サビエルホール)



■レオポルト騎士勲章

3年制から4年制へ 12期 細瀬 誠一

「オッソブチさん、あなた来てから学校ワルクナッタ」。当時のゴーセンス師にはいっぱい叱られました・いっぱい盾突きました・そして人一倍愛されました。私が大卒ということもあり、それまで御法度のダンスもフォークダンスなら許してもらえようになりましたし、学生企画のハイキングや旅行・パーティでの飲酒等が認められるようになったのも私達の時からです。黒いスーツに大きなバッジ…。私のようなイカツい顔が街を歩くとヤクザに頭を下げられたりして…。今はもう私服なんでしょ? 毎朝玄関に立ってベレー帽のチェックをした学長の姿が懐しい。古い木造の練習室…。夏はサウナ・冬は冷蔵庫。せめて小型のストーブでもと外国へ援助の手紙を書いたりもしたっけ。隔世の感。

一大過渡期…。3年制最後の卒業生となり、ピアノ科の桑村氏と数名が残留して第1回目の4年制卒となる。昭和40年…。それは将にエリザベトの歴史的かけ橋となった年。

- 3月 5日 レオポルト騎士勲章伝達式。
第19回定期演奏会。
(ゴーセンス学長、レオポルト騎士勲章叙勲記念)
マドリガル他
- 3月 3年制から4年制への移行にともない、この年は卒業式はなし。
- 8月1~5日 夏期受験講習会始まる。
- 10月15~16日 第5回バザー。(フルコンサートピアノの購入を目指しての開催)
- 10月22日 オペラ《出雲風土記》上演。 指揮:山本千恵子
- 11月19日 第20回定期演奏会。
ベートーヴェン:交響曲第2番他
指揮:井上一清(エリザベト音楽大学管弦楽団誕生)
- 12月21日 クリスマスコンサート。(世界平和記念聖堂)
グレゴリオ聖歌他
- 12月28日 日本初の宗教音楽学科設立認可される。



■授業風景



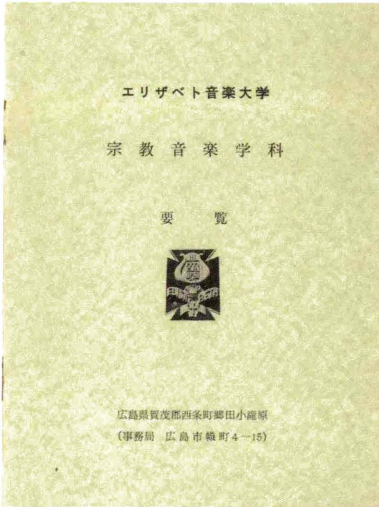
■レオポルト騎士勲章伝達式



■第20回定期演奏会

昭和41年の思い出 13期 牛尾 孝慈

我々は4年制の大学になって最初のクラスである。何か忙しい学生生活であったがそんな中、学業以外のことにもよく精を出したものである。皆で西条校舎でキャンプもしたし、クラス旅行もした。確か3年生の時だったと思うが、学長パーティーでミュージカルもどきの「竹取物語」を有志で上演した。台本作りから、作編曲、舞台装置に衣装、挙句の果てには生の楽隊まで結成してすべて手作りだった。今にして思えばどこにそんな暇があったのかと思う。主役は立井(松岡)君と戸田(清水)さんだった。それに気をよくした訳ではないが卒業の年にも、又もやミュージカルに挑戦したのである。色々な国の音楽を取り上げながら、日本の音楽はいったいどこにあるんだろうといった、オムニバス風のミュージカルだったと記憶する。この時はほとんど全員が出演した。ゴーセンス学長に喜んでいただけたかどうかははなはだ疑問であるが、後で太田先生から「パーがチー(?)をやる」とかでしこたまお小言を頂いたことだけは今もって覚えている。

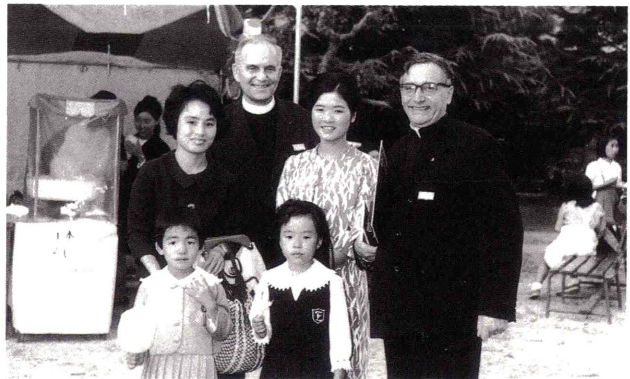


■エリザベト音楽大学宗教音楽学科要覧

- 3月 6日 スピリチュアルコンサート。(宗教音楽学科認可記念)
ホヴァネス:《マニフィカト》他
- 3月15日 エリザベト音楽大学第1回卒業式。
- 4月 1日 音楽科宗教音楽専修を「宗教音楽学科」
とすることが文部省より認可され、
宗教音楽学科と音楽学科の2学科に増設。
- 5月13日 ジョイントリサイタル。(広島市公会堂)井上二葉、後藤玲子、東学
- 7月 1日 東洋音楽と舞踊の夕べ。(見真講堂)
- 10月14~16日 第6回バザー。バザー記念演奏会
-小林道夫ハーブシコードリサイタル-
- 11月 7日 第21回定期演奏会。
ヴィヴァルディ:《グロリア》他
- 11月25日 ウィルヘルム・ケンプ、世界平和記念聖堂でパイプオルガン演奏。
- 12月21日 クリスマスコンサート。(世界平和記念聖堂)
レスピーギ:《降誕》他



■ウィルヘルム・ケンプ



■バザー



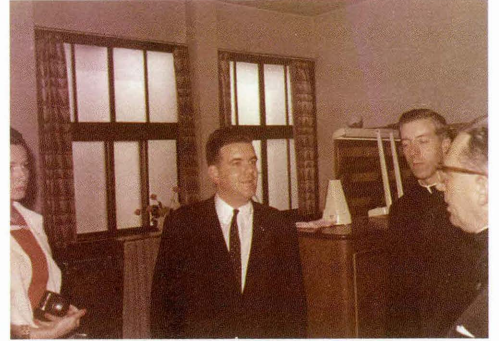
■太田先生の指揮法

昭和42年の思い出 14期 早稲田 須美子

14期生にとってテホン先生の思い出は授業の他にも沢山ある。昭和42年2月頃、原爆ドームが後に世界遺産に登録される程の価値あるものとの認識は私にはなかったが、「崩れかかったドームの保存にあなたの支えを」のスローガンには痛く共鳴したものである。当時の我が校では学内での募金活動でも学生指導部長の先生に許可をもらう必要があった。まさか首をすくめて手をひろげ独特のイントネーションで「あのねー早稲田さん…」の不許可という事はあるまいと思いつつも、笑顔での「私は手本(テホン)です」のご賛同でほっとしたが、寄付のお手本を示して下さったかどうかは覚えていない。しかし、どの学年の方々も募金に気持よく協力して下さいてうれしかった事は鮮明に覚えている。

原爆ドームのそばの「平和を願う多数の人々の寄金によって補強工事を施しこれを永久に保存する」の文字を見る度に、当時を懐かしく思い出す。

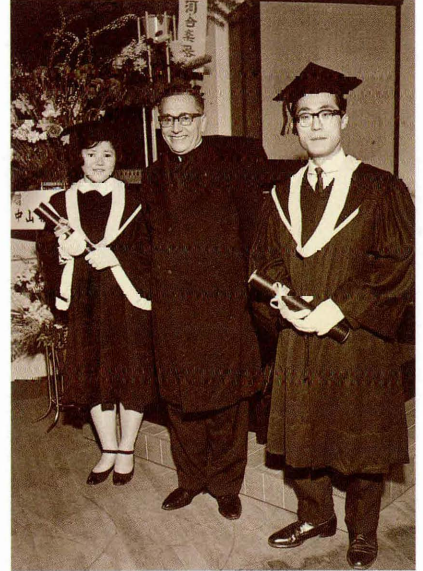
- 3月10日 スピリチュアルコンサート。(世界平和記念聖堂)
- 3月22～28日 エリザベト音楽大学管弦楽団演奏会。
(福岡、八幡、広島、姫路、西宮、福山、岡山)
ビゼー:交響曲第1番他
- 4月27日 愛宮真備教授(旧姓フーゴー・ラサール)が
広島市名誉市民に推挙される。
- 5月 9日 ベルギー国駐日総領事来校。
- 11月11日 エリザベトコンサート。(青少年センター)
-声楽アンサンブル-
- 11月21～12月9日 教職員・学生による台湾・香港・フィリピン演奏旅行。
12月 第7回バザー。
- 12月21日 クリスマスコンサート。(世界平和記念聖堂)
スカルラッティ:《クリスマスカータータ》他



■ベルギー総領事



■ゴーセンス学長還暦



■B.S.M.

B.S.M.の頃 15期 高橋 正道

ある夏の昼下がりに、私は、上智大学のイグナチオ教会の入口でゴーセンス神父から、自分の勉強の方法についてアドバイスを受けた。これが、私とエリザベトとの出会いである。

日々の授業の新鮮さ、驚き、感動、そして一緒に良く勉強した。分からないままで明日の授業を受けたくなかった。実に楽しかった。このような毎日の事が、今でもありありと蘇る。

宗教音楽学士の試験は、長時間にわたる公開試験で、水嶋先生の口頭試問も良く覚えている。ゴーセンス学長は、狩谷さんと私の合格を喜んで下さった。その時の記念写真は、私の宝物である。

昨今、文部省の勧めにより「科目等履修生」「社会人入学」「学士入学」等の制度が定着しているが、エリザベトは、早々とこれに類する大学開放を実施していた事になる。特色ある大学の知識、技能を得たい人を受け入れていたのである。エリザベト音楽大学は、時代を先取りしていた。これは、すごい事であった。